

新春を迎えて

西東京市地域支部長 濱田 豊

新年おめでとうございます。本年も皆さまにとりまして、良い一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

一昨年からコロナウィルス感染が世界中に広がり、日常的に人との接触を避けるといった孤独な生活を余儀なくされています。校友会活動も例外ではなく、新春交流会に始まり、花見、総会、暑気払い、バーベキュー、ハイキング、市民まつり等々、計画した行事は悉く中止せざるを得ませんでした。人と接触しない、会食を避ける、このような日常は社会的にも好ましいとは言えません。親しく歓談する機会を多く創り出そうとする校友会活動と相反するもので、私は大いに戸惑いを感じています。会員の皆様と親しく談笑する機会を失い、誠に残念でした。

このような状況から、密を避けて役員委員会議を毎月開き、西東京紫紺会の土台を固める地道な作業を粛々と進めています。又、コロナ感染を契機として、離れていてもパソコンやスマートフォンを使って情報を交換し合う方法が急速に一般化してきました。このような変化は、今後普通になりそうです。西東京紫紺会でも、従来の手法を維持しながらもこの波に乗って行けるように、先ずは役員委員から率先して取り組んで行きます。

西東京紫紺会は、会員の皆さま一人ひとりの明大校友会です。コロナの先行きは不透明ですが、5月の総会でお会いできることを楽しみにしています。

2022年の年頭に当たりまして、皆さまとご家族の健康と幸せを心からお祈り致します。本年も何卒宜しく願い申し上げます。